

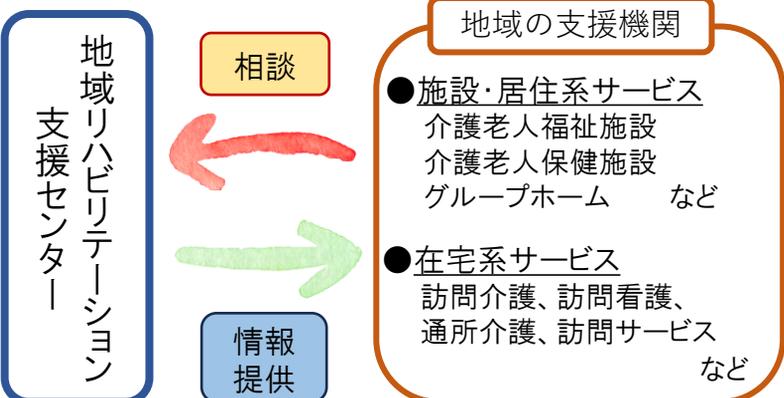
地域リハビリテーション支援センターだより (神奈川県リハビリテーション支援センター)

リハビリテーション専門相談のお知らせ

「地域の支援者」と連携し、リハビリテーションに関する総合相談や技術支援、制度の活用方法などの情報提供を行います。



相談の流れ

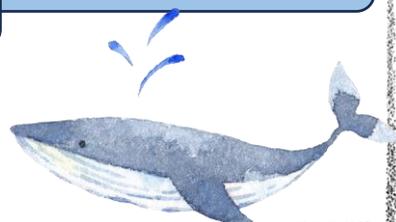
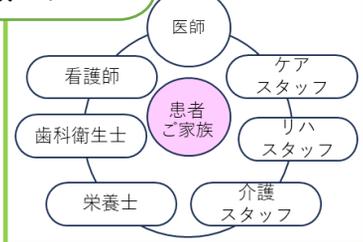


地域リハ支援センター
☎046-249-2602
月～金 9:00～17:15
(相談は無料です)

同行訪問

相談内容に応じて専門職が同行訪問し、現場で課題解決のためのアセスメントを行います。

地域のチーム



ご相談の際は、**地域のチーム**の意向や方向性も分かると具体的に進めやすいです。

相談例

- ・ベッド上で呼び出しボタンが押しにくい。
- ・車イスの姿勢を修正したい。
- ・介助方法について相談したい。
- ・コミュニケーション機器の導入の流れについて知りたい。
- ・上肢の動きが悪いため、食事場面での工夫を教えてください。
- ・補装具などの障がい福祉制度の利用について聞きたい。

などなど。

高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域で安心して生活が送れるように、支援者のみなさまと一緒に考えていきましょう！

お困りごとがありましたら、ぜひ専門相談をご利用ください。

リハビリテーション専門研修

6.1 からだにやさしい介助入門

介助者と介助される側が、お互いに負担なく**安心で安楽**に介助ができるよう、基本的な身体の使い方や介助動作、道具の使い方を実技中心に学びました。

参加者の声

介助体験により、受ける側の気持ちや福祉用具の便利さを学びました。不快・不安を感じさせない信頼関係と介助技術の大切さ、介助者自身も負担の軽減も重要だと感じました。



講師:

神奈川県立リハ病院 PT:太田 OT:城間
地域リハ支援センター PT:有馬 OT:吉澤

6.12 ポジショニング入門

ポジショニングに必要な基礎知識やベッド上姿勢を中心とした**姿勢援助のファーストステップ**について学びました。姿勢の整え方、クッションの差し込み方など、翌日から現場で実践できる実技や体験を行いました。

参加者の声:

ポジショニングは「隙間を埋める」ではなく、「重さを支える」という考え方がとても大切で、重心の位置やどこに圧を分散させるかが重要だということを知りました。

講師: 一般社団法人ナチュラルハートフルケアネットワーク
代表理事 下元 佳子氏



6.29 高次脳機能障がいセミナー 小児編

脳を損傷した子供が成長の過程において直面する、進学や社会参加といったライフイベントに対し、どのように意思決定を行い、自立を図っていくのか、またその成長をどのような形で家族とともに支えていくのかなど、各専門職から詳しいお話がありました。

参加者の声

ライフステージに合わせた支援の大切さや難しさを学ぶことができました。意思形成や家族への支援など具体的に知ることができました。今後の支援方法への気付きとなりました。



講師: 神奈川県立リハ病院 医師:吉橋、公認心理師:林、
OT:露木、職業指導員:進藤、SW:中澤
秦野支援学校 教諭:高橋

7.6 セラピストのためのハンドリング入門

対象者の身体に触れて動きを提供するための“ハンドリング技術”について、講義・実技を通して学びました。

参加者の声:

以前は視覚に頼っていましたが、手から相手の重心位置やどこに力が入っているのかなど、感じ取ることの難しさや大切さを学ぶことができました。

講師:

神奈川県立保健福祉大学 作業療法学専攻 教授 玉垣 努氏
神奈川県立リハ病院 :PT横山、後藤



8・9・10月の専門研修（予定）

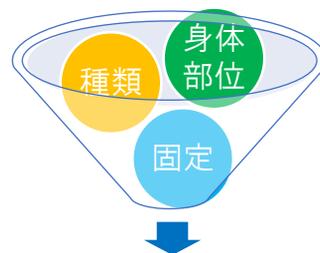
高次脳機能障がいセミナー 理解編	8月 31日（土）	神奈川県総合医療会館
脳血管障がいの評価と治療	9月 7日（土）	厚木看護専門学校
ADL支援の知識と実践	9月 28日（土）	厚木看護専門学校
知的障がいのある方への支援	10月 8日（火）	神奈川リハビリテーション病院
視覚障がいのある方への支援	10月 23日（水）	神奈川リハビリテーション病院

* 感染状況により、研修形式等の変更がある場合があります。適宜ホームページをご確認ください。

身近な道具を上手に活用しよう！「スイッチ編」

地域からの相談として、コミュニケーションに関する質問が増えています。今回は、コミュニケーション手段の一つとしてのスイッチ・ボタンについて紹介したいと思います。

上手に使用方法として、
「スイッチを対象者の状況に合わせる」ことが大切になります。当たり前のことですが、意外と身近な動作を振り返ってみると、既製品のスイッチに対象者が合わせて使用しているパターンが多いです。今回は、スイッチを選ぶためのポイントを紹介します。



ポイント①

スイッチの**種類・形状**の工夫

「**押しやすさ**」に注目。

スイッチが毎回楽に押せることで、使用者も使いやすく感じ、継続して使用することができます。

変更例：

・硬いボタン
 ⇒軽い力でも押せるスイッチ・ボタンに変更。

・ボタンが平面で押しにくい

⇒突起や段差をつけて押しやすくする。



ジェリービーン
スイッチツイスト



平型プラケース
スイッチ

ポイント②

スイッチの**固定・設置位置**の工夫

「**安定して同じ方法で押せる**」に注目。

スイッチを毎回確実に押せるので、安心して使用することができます。

変更例：

・小さく、押すたびに位置が動いてしまう
 ⇒土台を大きくし押すたびに動かないようにする。

* 壁・柵に設置する。

* 台に角度をつける。 などの工夫もあります。



圧電素小式/
空気圧式入力装置



ホップタッチ
スイッチ

技術の進歩により現在では様々な種類のスイッチやボタンが存在します。新しい情報を得ることも重要ですが、身近なものを工夫することで補えることもあります。

高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会・ 支援コーディネーター全国会議への参加



6月26日に国立障害者リハビリテーションセンターが開催する全国会議にオンラインで参加しました。こちらの会議は例年2回開催しており、高次脳機能障害の動向等についての情報共有や、支援コーディネーターが意見交換をする機会となっております。

ご存知の方もいると思いますが、今年度の障害福祉サービス等報酬改定で、「高次脳機能障害を有する者への支援に対する評価」として、相談支援事業所、通所サービスや居住サービスに対して研修を受けた場合に加算がつくことになりました。要綱で決められた研修カリキュラムは、厚労科研費で行われた研究で開発され、国立障害者リハビリテーションセンターの高次脳機能障害情報・支援センターのホームページに公開されています。また、高次脳機能障害の診断基準の見直しの研究が行われ公表予定であること、多機関連携や上記のカリキュラムのブラッシュアップ、診療に係る実態把握等の研究を予定しているという話題がありました。

支援コーディネーター会議では、「一般就労中の就労系障害福祉サービスの利用について」情報提供がありました。働き始め、復職の大きく分けて2つの場合に関係するものとなり、私たちが支援している方々では復職支援で関係することが多くなるように感じています。「復職支援型」となり、支給決定にあたり①雇用先企業からの資料、②主治医からの資料、③相談支援事業所（申請者）からの資料の3点の書類の提出が必要になります。①雇用先企業の資料がこれまでは基本的には不要でしたので、調整が必要になると思います。

今後も様々なことにアンテナを張って情報収集していきたいと思います。皆様との情報共有等が個別のケースの連携につながるがありますので、何か些細なことでもご連絡いただければ幸いです。今後ともよろしくお願いたします。

(佐藤)

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷(除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・加齢等)	不明	合計
県央	4(3)	2	3(2)			1(1)	8(5)	1	1		20(11)
湘南東部	1									1	2
湘南西部	5(1)						1	2			8(1)
県西	1							1			2
横須賀・三	2		1					1	1(1)	2	7(1)
横浜市								5			5
川崎市											0
相模原市								2			2
県外											0
合計	13(4)	2	4(2)	0	0	1(1)	9(5)	12	2(1)	3	46(13)

令和6年4月～
6月までの
専門相談実績

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央					2		8(5)	1	1	3(3)	5(3)				20(11)
湘南東部					1			1							2
湘南西部			2(1)		2	1	1	1		1					8(1)
県西				1	1										2
横須賀・三浦		1(1)		2	2	1				1					7(1)
横浜市					5										5
川崎市															0
相模原市					2										2
県外															0
合計	0	3(2)	0	3	15	2	9(5)	3	1	5(3)	5(3)	0	0	0	46(13)

()は訪問件数

編集
後記

今年も早いもので、1年の半分が過ぎました。以前と比べて、顔を合わせる場面が増え、より協力して仕事を進めていきたいと思っています。天候の変化が激しいですが、みなさまの体調はいかがでしょうか？これからも一緒に力を合わせて頑張りましょう。(吉澤)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601